

国際医療福祉大学三田病院
臨床研修プログラム

令和7年4月1日

国際医療福祉大学三田病院初期臨床研修プログラム 目次

分 類	内 容	ページ
1	概要	2-8
2	必修診療科について	9-10
2-1	内科初期臨床研修プログラム	11-12
2-2	救急部門初期臨床研修プログラム	13
2-3	地域医療初期臨床研修プログラム	14
2-4	外科初期臨床研修プログラム	15-17
2-5	小児科初期臨床研修プログラム	18
2-6	産婦人科初期臨床研修プログラム	19
2-7	精神科初期臨床研修プログラム	20-22
3	選択科について	23-24
3-1	整形外科初期臨床研修プログラム	25-26
3-2	皮膚科初期臨床研修プログラム	27
3-3	泌尿器科初期臨床研修プログラム	28-29
3-4	眼科初期臨床研修プログラム	30-31
3-5	頭頸部外科初期臨床研修プログラム	32
3-6	耳鼻咽喉科初期臨床研修プログラム	33
3-7	リハビリテーション科初期臨床研修プログラム	34
3-8	放射線科初期臨床研修プログラム	35
3-9	婦人科初期臨床研修プログラム	36-37
3-10	形成外科初期臨床研修プログラム	38
3-11	脳神経外科初期臨床研修プログラム	39-40
3-12	病理診断科初期臨床研修プログラム	41-42
3-13	麻酔科初期臨床研修プログラム	43
3-14	検査科初期臨床研修プログラム	44
3-15	保健・医療行政初期臨床研修プログラム（保健所）	45
3-16	保健・医療行政初期臨床研修プログラム（介護老人保健施設）	46
4	一般外来研修について	47

1 概要

1-1 特色と研修目標

【特色】

当院は、昭和8年に開院した伝統のある旧東京専売病院を平成17年3月1日に承継して開設した国際医療福祉大学の附属病院です。平成20年4月には東京都がん診療連携拠点病院の認可を受けました。臨床研修において、プライマリ・ケアを中心とした診療能力の養成をするとともに、チーム医療の大切さを体得し、医師としての人格育成を図ることを目標としております。

【研修目標（到達目標）】

国際医療福祉大学三田病院臨床研修プログラムは、将来プライマリ・ケアを行う第一線の医師及び高度な専門医のいずれにも必要な医師としての人格、基本的な知識・技術、ともにチーム医療を担う医療専門職との協調関係などの習得を目的とする。

研修目標を達成するために、当院では以下のとおり実施しております。

- (1) 臨床医として必要な基本的態度とマナーの修得
指導医や後期専攻医の患者さまに対する態度を模範とし、患者さまの権利や選択の自由を尊重しつつ、丁寧な説明を心がける。身だしなみ、言葉遣いには十分配慮する。
- (2) チーム医療での適応性、協調性の修得
病棟カンファレンスや診療科カンファレンスに参加し、指導医の他に看護師、薬剤師、リハビリテーション科のセラピスト、検査技師とよく連携をとり、患者さまに適した診療内容を考えていく。
- (3) 医学研究への参加
当院では、臨床病理カンファレンス（CPC）、学会発表、和文・英語論文作成といった学術的な指導も行っており、臨床医としての学術的能力の向上にも取り組んでいる。
- (4) 臨床医として必要な知識、技術の修得
指導医を中心に勉強会やシミュレーションセミナーを開催している。各診療科にて必要とされる専門的な知識や技術を学び、臨床につなげていく。

1-2 各診療科での研修

【必修科目】

(1) 内科

① 研修期間：1年次 24週

② 研修施設：

国際医療福祉大学三田病院、国際医療福祉大学熱海病院、国際医療福祉大学病院、高木病院、福岡山王病院、国際医療福祉大学塩谷病院、国際医療福祉大学市川病院、国際医療福祉大学成田病院)

③ 概要：

総合内科として日本内科学会認定総合内科専門医の下で内科全般の診療の基本を修習します。さらに、消化器、呼吸器、循環器、腎臓病・透析治療、糖尿病・内分泌代謝、脳神経、血液などを担当する指導医の下で、入院患者を受け持ち内科領域について専門的な知識・技能を習得します。

(2) 救急部門

① 研修期間：1年次 12週

② 研修施設：

国際医療福祉大学熱海病院、国際医療福祉大学病院、国際医療福祉大学成田病院、
国際医療福祉大学三田病院

③ 概要：

救急部門研修期間中はすべての診療科及び救急治療の基礎となる呼吸・循環・代謝の理論とテクニックを習得することを目標とします。呼吸管理に必要な気道確保と人工換気、血圧のコントロールと不整脈治療、ルートの確保（静脈・動脈・中心静脈）と輸液・輸血・酸塩基の管理等を行います。国際医療福祉大学三田病院は症例数が少ないため、原則、国際医療福祉大学熱海病院または国際医療福祉大学病院、国際医療福祉大学成田病院での研修となります。

また、麻酔科における研修期間4週上限として、救急部門の研修期間と認めています。

(3) 地域医療

① 研修期間：2年次 4週

② 研修施設：国際医療福祉大学クリニック

③ 概要：

全人的な医療を保健・医療行政・医療の観点から研修できるように配慮します。保健・医療行政・医療の対象疾患として主なものは、障害者として認定される疾患群ならびにこれに準ずる疾患です。訪問診療・看護、訪問リハビリテーション、通所介護（デイケア）・リハビリテーションなどのほか、家事を支援するホームヘルパー、家族の不在時を支援する短期・長期入所（介護支援）などがあります。これらのシステムの運用方法やその適応範囲などを、実際の状況と必要性とに照らし合わせて活用できる知識と技術を身につけることを目標としています。

(4) 外科

① 研修期間：4週

② 研修施設：

国際医療福祉大学三田病院、国際医療福祉大学熱海病院、国際医療福祉大学病院、高木病院、福岡山王病院、国際医療福祉大学塩谷病院、国際医療福祉大学市川病院、国際医療福祉大学病院、)

③ 概要：

切開縫合やルートの確保などの処置から外科小手術までの基本的手技を学ぶと同時に、術後管理や重症管理を通じて全身を診ることを到達目標とします。

(5) 小児科

① 研修期間：4週

② 研修施設：

国際医療福祉大学病院、国際医療福祉大学熱海病院、福岡山王病院、国際医療福祉大学成田病院、国際医療福祉大学塩谷病院

③ 概要：

現在の小児医療の情勢を考えると、将来、小児科以外の他科を専門とする場合においても、おのおのの専門科での小児患者の診療、または小児の一次医療に携わる機会があると思われます。その際に必要とされる小児への接し方、病歴の聴取方法、小児科専門医へ転送する必要性の有無の判断など小児医療の基本態度の習得を目指します。

(6) 産婦人科

① 研修期間：4 週

② 研修施設：

国際医療福祉大学三田病院（婦人科のみ）、国際医療福祉大学病院、山王病院、福岡山王病院、国際医療福祉大学成田病院

③ 概要：

婦人科では将来の高齢化社会の到来に備えて婦人科悪性腫瘍の診断・治療あるいは更年期障害、骨粗鬆症など中高年女性の健康管理を中心に研修を行います。産科では正常妊娠分娩の管理はもちろん、骨盤位、妊娠中毒症、多胎妊娠、前回帝王切開例、合併症のある妊婦等の管理、分娩について研修します。

国際医療福祉大学三田病院は産科がないため婦人科領域の研修となります。

産科領域については同一医療圏にある山王病院をはじめ、他病院にて研修を行います。

(7) 精神科

① 研修期間：4 週

② 研修施設：

東京都立豊島病院、国際医療福祉大学成田病院

③ 概要：

プライマリ・ケアレベルから司法精神医学まで幅広く学ぶ事を目的としています。精神医療は徐々に地域を基盤としたケアにむかう傾向になっており、地域医療を担う医師に精神的素養は必須となると考えています。

【選択診療科目】

(1) 内科

① 研修施設：国際医療福祉大学三田病院 他

② 概要：

呼吸器内科・腎臓・高血圧内科（透析も含む）・糖尿病・内分泌内科、脳神経内科・循環器内科・消化器内科・血液内科

臨床研修修了後、新専門医制度への円滑な移行を視野に入れ、消化器、呼吸器、循環器、脳神経、腎臓病・透析治療、糖尿病・内分泌代謝・血液内科担当などの指導医の下で入院患者を受け持ち内科領域についてより専門的な知識・技能を習得します。

(2) 外科

① 研修施設：国際医療福祉大学三田病院 他

② 概要：

臨床研修修了後、新専門医制度への円滑な移行を視野に入れ、一般、消化器、呼吸器、乳腺担当などの指導医の下で入院患者を受け持ち外科領域についてより専門的な知識・技能を習得します。

(3) 小児科

① 研修施設：

国際医療福祉大学病院、国際医療福祉大学熱海病院、福岡山王病院、国際医療福祉大学成田病院、国際医療福祉大学塩谷病院

② 概要：

選択必修で習得した小児医療の基本態度を基礎とし、さらに小児疾患の特異性、成長発達、育児相談などに対応できる技能を身につけます。また新生児・小児一般疾患への対応ができるように小児科で必要とされる技能、治療方法の習得を目指します。小児の一次救急も経験します。

- (4) 整形外科
- ① 研修施設： 国際医療福祉大学三田病院、国際医療福祉大学熱海病院、高木病院 他
- ② 概要： 整形外科は運動器障害を扱う科であり、対象はお年寄りから子供まで幅広く、疾患は外傷から変性疾患まで多種多様です。当科では短期間の研修で一般外傷に対応できる知識と技術を習得できるように指導しており、大小さまざまな手術も経験します。
- (5) 皮膚科
- ① 研修施設： 国際医療福祉大学三田病院 他
- ② 概要： 皮膚科は頭皮毛髪から足爪までの皮膚および口腔粘膜を扱います。当科では短期間の研修で、皮膚における種々の疾患の診断を進め、的確な診断を得て適切な治療を行うためのストラテジーを習得すべく、皮膚科における一般診療の知識と診断技術を習得するように指導します。
- (6) 泌尿器科
- ① 研修施設： 国際医療福祉大学三田病院、国際医療福祉大学病院 他
- ② 概要： 泌尿器科の基本的知識と手技を習得するとともに、泌尿器科的症状を有する患者に対する検査、診断、初期治療ができるようにします。
- (7) 眼科
- ① 研修施設： 国際医療福祉大学三田病院、国際医療福祉大学熱海病院 他
- ② 概要： 眼科は Quality of Life が求められる科であり、この点の自覚と責任感およびプライドを持てる医師の教育を目指しています。また、眼科は器械無くしては成立しない科であり、眼球自体も物理的な特性を有するため、検査および治療の理論性が重視されます。治りたい患者さんと治したい眼科医との信頼関係を大切にしながら、外来診療から手術まで研修してもらいたいと考えています。
- (8) 耳鼻咽喉科
- ① 研修施設： 国際医療福祉大学三田病院 他
- ② 概要： 耳鼻咽喉科はコミュニケーションをとるための器官における疾患が集中しています。また、気道と消化管の入り口を取扱うため、耳鼻咽喉科分野の習得は他科に進む際にも重要ですので、こうした点をふまえた研修を行います。
- (9) リハビリテーション科
- ① 研修施設： (国際医療福祉大学三田病院、柳川リハビリテーション病院 他
- ② 概要： リハビリテーション科を志す医師に対して、その基礎となる各種疾患の知識・検査手技・リハビリテーション技術を習得するためのプログラムです。当院の特徴として、各種高次脳機能障害のリハビリテーション、整形外科・脊椎脊髄センター入院患者における運動器リハビリテーション、胸部・腹部疾患の術前・術後の呼吸器リハビリテーション、がんのリハビリテーションに力を入れています。
- (10) 放射線科
- ① 研修施設： 国際医療福祉大学三田病院、高木病院 他
- ② 概要： 画像診断学、放射線治療・核医学につき理解を深め、実務能力を獲得することを

目的とします。

(11) 脳神経外科

① 研修施設：

国際医療福祉大学三田病院、国際医療福祉大学病院、国際医療福祉大学熱海病院、国際医療福祉大学成田病院 他

② 概要：

脳神経外科は脳と脊髄の腫瘍、血管障害、外傷、先天奇形などを扱う診療科です。また、当院では、脊椎・脊椎センターとして整形外科として協力して脊椎疾患の治療も積極的に行っています。これらの患者様に接しながら、将来脳神経外科医にならなくても必要とされる脳神経外科知識、管理、治療などについて習得することを目指します。

(12) 乳腺外科

① 研修施設：国際医療福祉大学三田病院 他

② 概要：

悪性多岐にわたる乳腺疾患の診断から治療までを幅広く、正確に対処する能力を習得するためのプログラムです。

(13) 麻酔科

① 研修施設：国際医療福祉大学三田病院 他

② 概要：

各科の手術における全身麻酔、局所麻酔に従事し基本的手技や周術期の患者のリスク評価について修得します。また、術前・術後の回診を行います。

(14) 病理診断科

① 研修施設：国際医療福祉大学三田病院 他

② 概要：生検組織の病理診断、剖検、検体の処理法などを学びます。

(15) 保健・医療行政

① 研修施設：みなと保健所、介護老人保健施設マロニエ苑

② 概要：

「保健所研修」では疾病予防などの諸対策及び健康増進や健康づくりのための計画、制度やシステムなどの理解し、医師としての保健・医療行政・公衆衛生活動に対する基本的な考え方、技術、知識を身につけていきます。

「介護老人保健施設研修」では、各種の介護サービス等の理解と医療保健施設との連携などを学びます。

※ 必修診療科、選択診療科の研修は、原則として1年以上、基幹型臨床研修病院である国際医療福祉大学三田病院にて研修を行います。

※ 研修期間（2年間）を通じた休止期間の上限は90日（就業規則で規定する休日は含まない）とする。

各研修分野に求められている必要履修期間を満たしていない場合、到達目標に必要な症例を経験していない場合は、2年目の選択科目の期間を利用する等により、あらかじめ定められた臨床研修期間内に各研修分野の必要履修期間・必要症例を満たすように該当する研修医とよく相談し、臨床研修委員会にて調整を行う。

1-3 臨床研修病院群

国際医療福祉大学三田病院臨床研修病院群の構成は以下の通りとします。

【基幹型臨床研修病院】

国際医療福祉大学三田病院

【協力型臨床研修病院】

国際医療福祉大学成田病院、国際医療福祉大学病院、国際医療福祉大学熱海病院、国際医療福祉大学塩谷病院、国際医療福祉大学市川病院、医療法人財団順和会山王病院、福岡山王病院、高木病院、柳川リハビリテーション病院、地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立豊島病院

(臨床研修協力施設)

国際医療福祉大学クリニック、介護老人保健施設マロニエ苑、みなと保健所

1-4 研修医の指導体制

(1) 研修管理委員会

病院長、プログラム責任者、協力型臨床研修病院、協力施設の研修実施責任者、外部委員、看護部研修責任者及び事務責任者で構成しています。

(2) 病院管理者・プログラム責任者

病院管理者：病院長 池田 佳史

プログラム責任者：望月 太一

(3) 指導医

指導医は臨床経験7年以上で、プライマリ・ケアの指導を充分行える能力と意欲を有する当院常勤医の中から、研修管理委員会が任命します。

1-5 評価方法

(1) 指導医、診療科、研修プログラムの評価

研修終了後、研修医による指導医・診療科・研修プログラムの評価が行われ、その結果は指導医、診療科へフィードバックされます。評価は原則としてEPOC（オンライン卒後研修評価システム）にて行います。

(2) 研修プログラムの自己点検・評価

研修プログラムが効果的かつ効率よく行われているかについて、定期的に（年1～2回）評価を行います。

1-6 研修医の募集定員並びに募集及び採用の方法

(1) 募集定員：5名

(2) 募集及び採用の方法

当院ホームページに公表します。医師臨床研修マッチング協議会の行う研修医マッチング（組合せ決定）を通じて採用決定します。

1-7 研修医の処遇に関する事項

- | | |
|---------|---|
| ① 職種 | 常勤医師 |
| ② 研修手当 | 1年次：32万円/月、2年次：34万円/月 |
| ③ 勤務時間 | 8:30～17:30 ※うち、休憩時間1時間 |
| ④ 時間外勤務 | 状況に応じてあり得る |
| ⑤ 休暇 | 年次有給休暇1年次：12日、2年次：16日、
夏季休暇有、年末年始休暇有 |
| ⑥ 日当直 | 指導医の監督のもとでの日当直有 |

- ⑦ 研修医宿舎 単身用:無、病院内個室:無
- ⑧ 健康保険・年金保険 私立学校教職員共済組合に加入
- ⑨ 労災保険 有、雇用保険 有
- ⑩ 健康管理 健康診断年1回実施
- ⑪ 医師賠償責任保険 病院で加入(個人加入は任意)
- ⑫ 学会・研究会等への出席 可能
- ⑬ アルバイト 禁止

2 必修診療科について

内科研修について

総合内科としての内科全般の診療の基本と、消化器、呼吸器、循環器、腎臓病・透析治療、糖尿病・内分泌代謝、脳神経、血液など内科領域についての専門的な知識・技能の習得を目標として、原則、1年次に合計24週で研修する。

研修実施施設は国際医療福祉大学三田病院、国際医療福祉大学熱海病院、国際医療福祉大学病院、高木病院、福岡山王病院、国際医療福祉大学塩谷病院、国際医療福祉大学市川病院、国際医療福祉大学成田病院とする。

研修プログラムの詳細については、内科初期臨床研修プログラム内容を参照のこと。

救急部門研修について

救急部門研修については、原則1年次に合計12週で研修する。

研修実施施設は国際医療福祉大学三田病院、国際医療福祉大学病院、国際医療福祉大学熱海病院、国際医療福祉大学成田病院とする。研修先は、研修医の希望に即して決めるが、国際医療福祉大学三田病院は症例数が少ないため、原則、国際医療福祉大学熱海病院、国際医療福祉大学病院または国際医療福祉大学成田病院での研修となる。

また、麻酔科における研修期間4週上限として、救急部門の研修期間と認める。

研修プログラムの詳細については、救急部門初期臨床研修プログラム内容を参照のこと。

地域医療研修について

地域医療研修については、原則、2年次に4週間研修する。

研修実施施設は、国際医療福祉大学クリニックとする。研修先は、原則、研修医の希望に即して決めるが、協力病院のローテーションの状況も含めて、調整が必要と認められる場合は、この限りでない。

研修プログラムの詳細については、地域医療初期臨床研修プログラム内容を参照のこと。

外科研修について

外科研修については研修期間を最低4週とする。

研修実施施設は、国際医療福祉大学三田病院、国際医療福祉大学熱海病院、国際医療福祉大学病院、高木病院、福岡山王病院、国際医療福祉大学塩谷病院、国際医療福祉大学市川病院、国際医療福祉大学成田病院とする。

研修プログラムの詳細については、外科初期臨床研修プログラム内容を参照のこと。

小児科研修について

小児科研修については、最低4週の研修期間とする。

研修実施施設は、国際医療福祉大学病院、国際医療福祉大学熱海病院、福岡山王病院、国際医療福祉大学成田病院、国際医療福祉大学塩谷病院とする。研修先は、原則、研修医の希望に即して決めるが、協力病院のローテーションの状況も含めて、調整が必要と認められる場合はこの限りでない。

研修プログラムの詳細については、小児科初期臨床研修プログラム内容を参照のこと。

産婦人科研修について

産婦人科研修については、最低 4 週の研修期間とする。

研修実施施設は、国際医療福祉大学病院、国際医療福祉大学成田病院、国際医療福祉大学三田病院、医療法人財団順和会山王病院、福岡山王病院とする。研修先は、原則、研修医の希望に即して決めるが、協力病院のローテーションの状況も含めて、調整が必要と認められる場合は、この限りでない。

なお、国際医療福祉大学三田病院は産科がないため婦人科領域の研修となり、産科領域は他の病院で研修する。

研修プログラムの詳細については、産婦人科初期臨床研修プログラム内容を参照のこと。

精神科研修について

精神科研修については、最低 4 週の研修期間とする。

研修実施施設においては、国際医療福祉大学成田病院、独立行政法人東京都立病院機構 東京都立豊島病院とする。

研修プログラムの詳細については、精神科プログラム内容を参照のこと。

- ※ 尚、各研修医においては、研修先を国際医療福祉大学三田病院以外での研修ローテーションを希望する場合は、早い段階で臨床研修委員長に申し出ること。

2-1 内科初期臨床研修プログラム

(1) プログラムの概要と特徴

一般に内科学は medicine (ラテン語の癒すに由来する) といい、これは医学そのものを指す場合もあり、その包括する範囲は極めて広い学問である。近年各分野で専門医療の重要性が強調されているが、実地臨床の基本は「患者を包括的に診る」という視野の広い姿勢である。ここに内科学の学問としての裾の広さと奥行きがある。日本は加速的に高齢化社会をむかえ、今後高齢化比率はますます高くなる。したがって21世紀の医学・内科学に携わる医師に最も必要なのは、ひとりひとりの患者を全人的に、包括的に診ることのできる幅広い医学的知識と豊かな人間性である。本プログラムは内科学という学問を通し、必須期間も含めた本院での2年間の研修期間で、社会人としての常識・モラルを持った才能豊かな医師となることを目的に作成した。

本院の大きな特徴として、内科が各専門分野に分かれセンター化していることが上げられる。現在内科スタッフに関連のあるセンターとして、心臓血管センター、消化器センター、呼吸器センター、透析センター、脳神経内科・リハビリテーション科、悪性リンパ腫・血液腫瘍センターが開設されている。内科スタッフはそれぞれのセンターに所属しながら、カンファレンスに出席し、積極的な意見、情報交換を行なっている。内科初期臨床研修医は、専門診療科にはとらわれず指導医とともに各疾患を万遍なく研修し、内科全般の基本的臨床力を身につけることを目標とする。もちろん特に興味のある分野ではさらに深く、センター診療に参加することも可能である。

常に包括的に診られる幅広い基礎知識を持ち(総合内科としての素質)、それに加え、各自が独自の深い専門知識も合わせ持つ(内科専門としての素質)という、バランスのとれた内科医を目標として、積極的に精進することを期待する。

(2) 研修期間

1年次 24週は必修

(3) 研修目標

- ① 内科学としての基本的な知識、診療技術を習得すること。
- ② 決められた範囲で診療に必要な手技を会得すること。
- ③ カンファレンス、学会、研究会での的確なプレゼンテーションと質疑応答ができること。
- ④ 興味ある文献、あるいは内科全般に関する最新の研究論文を読むといった向上心を持つこと。
- ⑤ 患者に不快を与えない身なりで、自信のある診療態度が取れ、患者の信頼が得られるような内科医になること。
- ⑥ その他、詳細は臨床研修プログラムを参照のこと。

(4) 研修方法

- ① 24週の必修期間は病棟業務が中心となる。各指導医のもとで様々な疾患を研修する。カンファレンスで、受け持ち患者のプレゼンテーションを行ない上級医からの指導を受ける。その際は最新の知識を得られるように、研修医自身も事前に十分学習して出席する必要がある。カンファレンス以外にも、それぞれの科によって適宜検討会、抄読会があり積極的に参加する。
- ② 受け持ち患者の検査に付き添い、基本的な検査技術(腹部エコーなど)を会得する。
- ③ 病棟業務になれたころ、外来で上級医の診察に参加する。問題意識を持ち、内科医としての思考ができるように努力する。

週間予定(例)

	月	火	水	木	金	土
午前	病棟・検査	病棟・検査	病棟・検査	病棟・検査	病棟・検査	病棟・検査
午後	病棟・カンファレンス・抄読会	病棟・検査	病棟・検査・内視鏡カンファレンス	病棟・検査・抄読会・内科外科消化器合同カンファレンス	病棟・検査・透析室カンファレンス 腎臓・高血圧内科カンファレンス 呼吸器合同カンファレンス	病棟・検査

※ その他、各科・各センターのカンファレンスがある（曜日、時間は適宜確認）。詳細は臨床研修プログラムを参照のこと。外来診察への参加は、主に午前中となる。

(5) 研修施設・指導スタッフ

① 研修施設：

国際医療福祉大学三田病院、国際医療福祉大学熱海病院、国際医療福祉大学病院、高木病院、福岡山王病院、国際医療福祉大学塩谷病院、国際医療福祉大学市川病院、国際医療福祉大学成田病院

② 研修実施責任者：岩田 信恵

③ 指導スタッフ：（臨床研修指導医は○）

○岩田 信恵	国際医療福祉大学三田病院	副院長・神経内科部長	脳神経
○望月 太一	国際医療福祉大学三田病院	教授・呼吸器内科部長	呼吸器
○坂本 昌也	国際医療福祉大学三田病院	教授・内科部長・地域連携部長	糖尿病・内分泌
○宮下 和季	国際医療福祉大学三田病院	教授・内科部長	内分泌
○片岡 幹統	国際医療福祉大学三田病院	准教授・消化器内科部長	消化器
○渡辺 知佳子	国際医療福祉大学三田病院	准教授	消化器
○中崎 久美	国際医療福祉大学三田病院	准教授	血液内科
○木村 茂樹	国際医療福祉大学三田病院	准教授	循環器

(6) 研修評価

本院の臨床研修は厚生労働省の新臨床研修医制度における指導ガイドラインに基づき、EPOC（オンライン卒業研修評価システム）を用いて評価する。その他必要であれば、科によっては若干変更した評価法も行なうこともある。研修中は形成的評価により研修医にフィードバックし、研修目標達成状況や改善点をはっきりさせ、目標達成のため指導医が全面的に援助する。最終的には総括的評価（合否判定）を行なう。

2-2 救急部門初期臨床研修プログラム

(1) プログラムの概要と特徴

国際医療福祉大学病院（栃木）、または国際医療福祉大学熱海病院、国際医療福祉大学成田病院、または国際医療福祉大学三田病院で実践的な救急治療の実習をする。救急治療の基礎となる呼吸・循環・代謝の理論とテクニックを習得することを目標とする。具体的には呼吸管理に必要な気道確保と人工換気、血圧のコントロールと不整脈治療、ルートの確保（静脈・動脈・中心静脈）と輸液・輸血・酸塩基の管理等である。

(2) 研修期間

1年次 12週は必修

（麻酔科での研修を4週上限として、救急部門の研修とすることができる）

(3) 研修目標

救急診療における基本的な判断・技術の習得。救急医学関連の英文総説・原著の理解と evidence level の評価。災害時対応方法の理解と訓練。希望者には臨床研究学会発表も考慮。

(4) 研修方法

時間割・到達目標 指導医とともに二次救急以上の救急患者の初期診療を行うとともに外傷、中毒患者の入院管理を行う。さらに地域の救急隊の実態を理解する為に救急車の同乗を行う。診断治療技術の向上を図るとともにチーム医療の一員である医師として必要な態度を身につける。

(5) 研修施設・研修実施責任者（臨床研修指導医は○）

国際医療福祉大学三田病院/○星本 相淳

国際医療福祉大学病院/○上小牧 憲寛

国際医療福祉大学熱海病院/○遠藤 拓郎

国際医療福祉大学成田病院/○志賀 隆（救急部部長）

(6) 研修評価

EPOC（オンライン卒後研修評価システム）を用いて評価する。

2-3 地域医療初期臨床研修プログラム

(1) プログラムの目的と特徴

国際医療福祉大学三田病院臨床研修プログラムでは、地域医療の中で、保健・医療・福祉（介護）が一体となった地域包括ケアの修得のために、以下の施設を研修先として定めている。また、本研修の到達目標についても以下の項目を掲げる。

(2) 研修施設・研修実施責任者（臨床研修指導医は○）

国際医療福祉大学クリニック/前田 眞治（院長）

栃木県北地域の臨床研修協力施設として、地域住民の健康診断や日常の健康管理を行う。「健康管理センター」と言語・聴覚等の機能に障害を持つ人の検査、診断、治療及びリハビリテーションを行う「言語聴覚センター」を有している。

(3) 到達目標

- ① 保健・医療・福祉の総合的視点から治療を考える基本を身につけること。
- ② 個人の尊厳を守り、安全対策にも配慮できるようになること。
- ③ チーム医療を理解できるようになること。
- ④ ターミナルケアを含んだ、在宅医療を理解し積極的な参加ができるようになること。
- ⑤ 在宅サービスなどを活用する事により、様々な患者の社会復帰体制や地域支援体制があることを理解すること。

(4) 研修期間

研修期間は2年次4週 ※在宅医療（訪問診療）含む

(5) 研修の内容等

① 研修内容

- ・患者・家族との関係面接技法、患者への接し方や患者、家族のニーズを把握する。
- ・心理社会的な理解と援助、患者のQOLを理解する。
- ・適切なインフォームド・コンセントやプライバシー保護の重要性を理解する。
- ・診療計画・評価において、患者の問題点を全体的に把握し整理する。
- ・問題点の優先順位を考えリハビリテーションプログラムを作成する。また、この内容をコメディカルスタッフ等に説明する。
- ・在宅支援復帰プログラムの変更を適切に行う。
- ・退院時要約をまとめ考察を行う。
- ・文献検索を行い情報収集する。
- ・診療記録などの医療記録を記載する。
- ・診断書・検案書その他の証明書を作成する。
- ・紹介状、返事、報告書などを作成する。

② 診療と研修指導體制

- ・リハビリテーション科の患者様を3-4名と、さらに各診療科指導医から推薦された在宅医療の患者様2-3名を受け持ち、指導医のもとで研修する。

③ カンファレンス（例）

月曜日 午前 外来診療 午後 外来診療

12:45 リハビリテーション科ケースカンファレンス

火曜日 午前 外来診療 午後 外来診療

水曜日 午前 外来診療 午後 外来診療

木曜日 午前 外来診療 午後 外来診療

金曜日 午前 外来診療 午後 訪問診療

17:00 リハビリテーション科機能診断カンファレンス

※研修施設の実情に即して内容が変わる。

(6) 評価

EPOC（オンライン卒後研修評価システム）を用いて評価する。

2-4 外科臨床研修プログラム

(1) プログラムの概要と特徴

本プログラムでは、外科診療を通して、外科学を学び・実行することを目的とする。外科診療とは、消化器外科・内分泌外科・乳腺外科・呼吸器外科・心臓外科・血管外科・移植外科からなる診療科での研修であり、これらの診療科を通して以下のことを研鑽する。医の倫理に配慮し、外科診療を行う上での適切な態度と習慣を身に付ける。外科の基本的問題解決に必要な基礎的知識、基本的外科手技、周術期管理を習得する。実地臨床症例から自己学習を促進させ研究会や学会などで症例報告を行う。

外来診療、手術、入院患者の術前術後管理について上級医による指導を受ける。

定期的に行われる回診、術前、術後の症例検討会、抄読会に出席し、受け持ち患者の臨床のみならず外科疾患に対する最新の知識を得るように努める。

主として消化器センターにおいて研修をおこなう。消化器センターでは、上部消化管、下部消化管、肝胆膵の各チームに所属し、食道、胃、大腸、肛門、肝胆膵、ヘルニア、虫垂炎、内分泌疾患を診療する。

希望者には更に、乳腺外科または呼吸器外科、心臓外科、血管外科、移植外科の研修も可能とする。

(2) 研修期間

必修診療科 4週（乳腺外科、呼吸器外科、心臓外科、血管外科、移植外科は選択診療科としての研修も可能である）

(3) 研修目標

別項のプログラム参照

(4) 研修方法

① 診療体制

上部消化管、下部消化管、肝胆膵臓のチームに4週所属し、指導医のもとで診療に当たる。

② 週間予定

手術：月から土の週5日。この中で、自分のチームの患者の手術、虫垂炎、ヘルニアの手術に参加する。

検査：内視鏡検査（上部・下部とも）月から土の週6日、超音波検査 金を除く週5日。いずれも担当患者の検査に参加、CT検査・X線透視も適宜担当患者による。

病棟：週6日。回診・処置。担当患者によって、日曜日でも処置のため出勤。

カンファレンス：月～土8時～ 病棟患者カンファ・病棟回診

月 8時30分～ 術後カンファ

木月 17時30分～ 多職種消化器カンファ・術前カンファ

（医師・看護師・作業療法士・理学療法士、言語聴覚士、薬剤師、医療ソーシャルワーカー）

(5) 研修施設・指導スタッフ

研修施設：国際医療福祉大学三田病院、国際医療福祉大学熱海病院、国際医療福祉大学病院、高木病院、福岡山王病院、国際医療福祉大学塩谷病院、国際医療福祉大学市川病院、国際医療福祉大学成田病院指導スタッフ：（臨床研修指導医は○）

○星本 相淳	国際医療福祉大学三田病院	消化器センター長	消化器外科
○羽鳥 隆	国際医療福祉大学三田病院	教授	消化器外科
○小櫃 由樹生	国際医療福祉大学三田病院	血管外科部長	血管外科
加藤 亜由	国際医療福祉大学三田病院	医師	消化器外科
○林 和	国際医療福祉大学三田病院	教授・呼吸器外科部長	呼吸器外科
○頓所 展	国際医療福祉大学三田病院	准教授・移植外科副部長	移植外科
○甲斐崎 祥一	国際医療福祉大学三田病院	教授・乳腺センター長	乳腺外科

(6) その他対応する外科系診療科

○呼吸器外科 プログラム

概要

胸部異常影を呈する疾患は肺炎、結核、肺癌など多彩であり、確定診断に至るプロセスや診断技術を習得し、手術療法のみでなく、進行癌や再発癌に対する化学療法・放射線療法・分子標的治療を経験し、呼吸器疾患のあらゆる知識を習得することは意義深い。呼吸器外科では、肺癌の早期診断を重視するとともに、安全で根治度の高い手術を心がけており、胸腔鏡下手術から拡大手術、術前後の化学療法や放射線療法など含め集学的治療を行なっている。すべての検査から治療に積極的に参加し、診断から治療まで幅広い知識と技術を修得していただききたい。

期間

4週（選択科目として選択可能）。

研修方法

指導医のもと、すべての手術・検査・処置に参加し、診療を通して呼吸器外科の基礎的知識、基本的な外科手技、周術期管理を習得する。具体的には、胸部画像読影法、診断法（気管支鏡、CTガイド下肺生検など）、肺癌臨床病期の判定、治療方針の決定、外科手技（胸腔穿刺や胸腔ドレナージ）、呼吸器外科手術（胸腔鏡下手術）の基本的手技、術前後管理、を学ぶ。また、病棟回診、呼吸器センター内科外科合同カンファレンス、呼吸器病理カンファレンス、病棟カンファレンス、症例検討会、関連学会に出席し、受け持ち患者の臨床のみならず呼吸器疾患の最新知識を得る。

○心臓外科 プログラム

概要

高い倫理観を持ち、常に修練を忘れず道を極める一流外科医（心臓外科医）を育成する。安全・確実な手術手技の習得はもちろんのこと、高度な医療技術を持った大学病院の特性を生かした最先端医療を会得し、将来自立した専門医として診療が行える事を目標とする。

研修期間

4週（選択科目として選択可能）。

研修方法

臨床研修指導医の指導の下に心臓外科の基本的知識と技術の習得を目標とする。具体的目標は以下のとおり。①心臓疾患の病態整理・診断・治療の知識を習得し内科的治療を含めた治療の適応や術式の判断が行える。②外科技術の習得。③体外循環や人工臓器の理解。④ICU管理を中心とした心臓血管疾患の管理と治療。

○移植外科 プログラム

概要

腎不全外科として腎臓移植、透析患者のバスキュラーアクセスを学ぶほか、肉腫センター外科チームとして希少癌である腹部肉腫の手術を通じ、専門性の高い外科治療について学ぶ。

研修期間

4週（選択科目として選択可能）。

研修目標

臓器移植の基本となる血管吻合法についてトレーニングを行なう。移植免疫学、臓器保存、免疫抑制療法について理解する。また、肉腫手術に参加し、尿路・腸管・肝胆膵・血管の合併切除や再建法を学ぶ。

研修方法

指導医と共に日々の病棟管理・手術・検査・外来診療に参加する。この他、病棟カンファレンス・移植適応カンファレンスに参加する。

○乳腺外科

概要

良悪性多岐にわたる乳腺疾患の診断から治療までを幅広く、正確に対処する能力を習得するためのプログラムである。当院の特徴として、乳房再建を伴う乳房温存術式の習得や形成外科との共同で乳房切除後の乳房再建術式の研修も可能である。また、術前・術後化学・ホルモン療法的基础から再発乳がん治療までの専門的知識の理解を目標とする。

研修期間

4週（選択科目として選択可能）。

研修目標

以下のような項目を習得することを目標とする。

- 1 診療技術の基本： 病歴聴取、理学的所見の取り方、検査の進め方、読影
- 2 検査： 超音波、マンモグラフィー、MRI、CT、PET-CTなどを習得
- 3 処置・手術： 超音波ガイド下針生検、センチネルリンパ節生検、乳房部分切除、乳房切除、腋窩リンパ節郭清などを指導医の下で経験する。

(7) 研修評価

EPOC（オンライン卒後研修評価システム）を用いて評価する。

2-5 小児科臨床プログラム

(1) プログラムの概要と特徴

国際医療福祉大学病院（栃木）、国際医療福祉大学熱海病院（静岡）、国際医療福祉大学成田病院、福岡山王病院での研修が主体となる。

現在の小児医療の情勢を考えると、将来、小児科以外の科を専門とする場合においても、小児患者の診療、または小児の一次医療に携わる機会に遭遇する場合があります。そのような場合でも的確な状況判断ができるように小児科診療の基礎を学ぶ。

(2) 研修期間

必修診療科 4 週

(3) 研修目的

- ・ 小児の一般的な急性疾患（上気道炎等）及び慢性疾患について診療能力を身につける。
- ・ 小児専門医にコンサルトすべき状況を判断する能力を身につける。
- ・ 一般的な育児についての相談を受けた場合に対応できる能力を身につける。

(4) 研修目標

小児への接し方、病歴の聴取方法、小児疾患の特異性、成長発達、小児科専門医へ転送する必要性の有無の判断など小児医療の基本を習得する。小児の一次救急も経験する。

(5) 研修方法

協力型臨床研修病院であるいずれかの病院を選択する。

研修は施設のスケジュールに即して、指導医やスタッフの指導の基で実施する。

研修期間中は研修医用の宿舎を利用する。

(6) 研修施設・研修実施責任者（臨床研修指導医は○）

○郡司 勇治	国際医療福祉大学病院	医学部教授
○堀口 泰典	国際医療福祉大学熱海病院	准教授
○藤井 克則	国際医療福祉大学成田病院	小児科部長、医学部 小児科学教授（代表）
○嶋岡 鋼	国際医療福祉大学塩谷病院	小児科副部長
○井手口 博	福岡山王病院	小児科部長

(7) 評価方法

EPOC（オンライン卒後研修評価システム）を用いて評価する。

2-6 産婦人科臨床研修プログラム

(1) プログラムの目的と特徴

産婦人科は、基本的な分野として産科周産期医学、不妊内分泌医学、婦人科腫瘍学の3つの柱により構成されているが、これらをバランスよく研修するように配慮している。産科周産期医学分野では、妊娠、分娩、産褥期の管理法中心に研修がプログラムされている。

尚、分娩管理につきましては豊富な症例を通じて、多くの経験を積むことができる。同時に新生児の管理につきましても、NICU と連携して研修する体制をとっている。不妊内分泌医学では、内分泌学的な基礎および不妊症の検査治療法を総合的に学んでいただくだけでなく、高度不妊治療も含めたハイレベルな研修ができる。婦人科腫瘍学では、婦人科良性、悪性疾患の診断法および治療法を研修し、各疾患に特有な手術法も学ぶことができる。

「国際医療福祉大学病院（栃木県）」、「国際医療福祉大学成田病院（千葉県）」、「医療法人財団順和会山王病院」では尚、上記内容がトータルで対応可能である（※研修先は、原則、研修医の希望に即して決めるが、協力病院のローテーションの状況も含めて、調整が必要と認められる場合は、この限りでない。）

「国際医療福祉大学三田病院」では婦人科領域について研修可能。

(2) 研修課程

① 期間

研修期間は4週

② 診療と指導体制

産婦人科の入院患者様全体を把握し、指導医のもとで研修します。

研修は、評価表を兼ねているチェックリストを熟読して行ってください。

③ カンファレンス

月曜日 8：30 産婦人科モーニングカンファレンス

火曜日 8：30 産婦人科モーニングカンファレンス
17：00 周産期カンファレンス

水曜日 8：30 産婦人科モーニングカンファレンス
午後 手術

木曜日 8：30 産婦人科モーニングカンファレンス

金曜日 8：30 産婦人科モーニングカンファレンス
午後 手術

17：00 術前カンファレンス

土曜日 8：30 産婦人科モーニングカンファレンス

※この部分は、臨床研修協力施設の実情に即して内容が変わる。

(3) 臨床研修協力施設・研修実施責任者（臨床研修指導医は○）

○大和田 倫孝	国際医療福祉大学病院	産婦人科部長
○永松 健	国際医療福祉大学成田病院	産科・婦人科部長
○大柴 葉子	医療法人財団順和会山王病院	産科部長
○上田 和	国際医療福祉大学三田病院	副院長、婦人科部長
○渡邊 良嗣	福岡山王病院	産婦人科部長

※婦人科疾患

(4) 評価

EPOC（オンライン卒後研修評価システム）を用いて評価する。

2-7 精神科臨床研修プログラム

(1) プログラムの概要と特徴

精神症状を有する患者ひいては医療機関を訪れる患者全般に対して、特に心理社会的職面からも対応できるように、基本的な診断及び治療ができ、必要な場合は適時精神科への診察依頼ができるような技術を習得する。また、豊島病院では精神科リエゾンチームでの研修を、成田病院ではもの忘れ外来など専門外来を行う。

具体的には、主要な精神疾患・精神状態像、特に研修医が将来、各科の日常診療で遭遇する機会の多いものの診療を、指導医とともに経験する。具体的には以下の目標がある。

(2) 研修期間

必修診療科 4 週

(3) 研修目標

- # 1 プライマリ・ケアに求められる精神症状の診断と治療技術を身につける
 - 1) 精神症状の評価と鑑別診断技術を身につける
 - 2) 精神症状への治療技術（薬物療法・心理的介入方法など）を身につける

- # 2 身体疾患を有する患者の精神症状の評価と治療技術を身につける
 - 1) 対応困難患者の心理・行動理解のための知識と技術を身につける
 - 2) 精神症状の評価と治療技術（薬物療法・心理的介入方法など）を身につける
 - 3) コンサルテーション・リエゾン精神医学の技術を身につける
 - 4) 緩和ケアの技術を身につける

- # 3 医療コミュニケーション技術を身につける
 - 1) 初回面接のための技術を身につける
 - 2) インフォームド・コンセントに必要なコミュニケーションの技術を身につける
 - 3) 患者・家族の心理理解のための技術を身につける
 - 4) 緩和ケアの技術を身につける

- # 4 チーム医療に必要な技術を身につける
 - 1) チーム医療モデルを理解する
 - 2) 他職種との連携のための技術を身につける
 - 3) 病診連携、病病連携を理解する

- # 5 精神科リハビリテーションや地域支援体制を経験する
 - 1) 精神科デイケアを経験する
 - 2) 精神科訪問看護制度について理解する
 - 3) 社会復帰施設・居宅生活支援事業・地域リハビリテーション（共同作業所、小規模授産施設）の仕組みを理解し、医療と福祉サービスを一体的に提供する技術を身につける
 - 4) 精神保健センター・保健所の精神保健活動について理解する

- (4) 行動目標
 - # 1 精神及び心理状態の把握のしかた並びに対人関係の持ち方について学ぶ。
 - 1) 医療人として必要な態度・姿勢を身につける
 - 2) 基本的な面接法を学ぶ
 - 3) 精神症状の捉え方の基本を身につける
 - 4) 患者、家族に対し適切なインフォームド・コンセントを得られるようにする。
 - 5) チーム医療について学ぶ

2 精神疾患とそれへの対処の特性について学ぶ。

- 1) 精神疾患に関する基本的知識を身につける。主な精神疾患の診断と治療計画を立てることができる
- 2) 担当症例について生物学的・心理学的・社会的側面を統合した上でバランスよく把握し治療できる
- 3) 精神症状に対する初期的な対応と治療の実際を学ぶ
- 4) リエゾン精神医学及び緩和ケアの基本を学ぶ
- 5) 向精神薬やその他の身体療法の適応を決定し、指示できる
- 6) 簡単な精神療法を学ぶ
- 7) 精神科救急に関する基本的な評価と対応を理解する
- 8) 精神保健福祉法及びその他の関連法規の知識を持ち、適切な行動制限の指示を理解できる
- 9) デイケアなどの社会復帰や地域支援体制を理解する

(5) 研修 4 週水準で行動できることが必要な 8 項目

- ・ 精神科診断に至る過程を理解できる
- ・ 代表的な疾患（気質・症状精神病、痴呆性疾患、アルコール依存症、うつ病、精神分裂病、不安障害、心身症）について、診断基準を含めた理解ができる
- ・ 代表的な向精神薬（向精神薬、抗うつ薬、感情調整薬、抗不安薬、睡眠導入剤）について効果・副作用、投与法を理解できる
- ・ 無痙攣性電気療法（m-ECT）について有効性・副作用を理解し、手技について適切に施行できるようにする
- ・ 他科入院中のリエゾン精神医療で扱う代表的な疾患について理解できる
- ・ 診断的面接法を実践できる
- ・ 心理検査（WAIS-R、SCT、ロールシャッハなど）について説明できる
- ・ 興奮状態の患者に対する鎮静法について、自殺企図患者に対する危機介入について理解できる

(6) 研修方法

○週間予定

	月	火	水	木	金
午前	8:00 救急 c. c. 9:00 救急外来 11:00 鑑定研修	8:00 救急 c. c. 9:00 病棟	8:00 救急 c. c. 9:00 ECT	8:00 救急 c. c. 9:00 外来	8:00 救急 c. c. 9:00 リエゾン
午後	12:00 輪読会 13:00 病棟 c. c. 14:00 病棟 16:00 勉強会	13:00 デイケア 16:00 病棟 c. c.	13:00 病棟 c. c. 14:00 病棟	13:00 病棟 c. c. 14:00 病棟	13:00 病棟 c. c. 14:00 病棟 16:00 入院患者 c. c.
このほか随時救急対応、月 1 回保健相談					

○研修内容

経験すべき症例は、下記に記載中の経験目標で示された疾患を中心として、研修期間中に入院主治医として 4 例以上を担当する。また、研修期間中の入院患者の状況に応じ、痴呆または症状精神病（せん妄）のどちらか一つを症例レポートとすることも可能とする。

さらに、協力型病院（豊島病院）の特徴として挙げられる夜間精神科救急の見学実習、身体合併症救急の見学実習を体験するものとする。

○研修実績目標

1. 入院患者数 4～6名
2. 救急外来患者数 精神科救急外来において5名～10名程度の診察に立ち会う
3. 他科入院患者 5名～10名程度の患者に対して指導医とともに診察にあたる
4. 精神科病棟 C.C. 週に1度の頻度で行われる入院患者 C.C. で受け持ち患者に対して診断、経過、治療方針について報告する

(7) 研修スタッフ

短期間にできるだけ多くの経験をしてもらうためにも、研修に必要な症例の診療にその主治医の指導の下に診療にあたる。

(8) 臨床研修協力施設・研修実施責任者（臨床研修指導医は○）

○中里道子	国際医療福祉大学成田病院	精神科部長、教授
○奥村 正紀	独立行政法人東京都立病院機構 東京都立豊島病院	精神科部長

(9) 研修評価

EPOC（オンライン卒後研修評価システム）を用いて評価する。

3 選択診療科について

国際医療福祉大学三田病院臨床研修プログラムでは、国際医療福祉大学三田臨床研修病院群に属する全ての施設で、対応できる診療科全てを選択科として定める。

選択できる研修期間は、基本診療科の期間を除いた最大11ヶ月とする。

選択内容については、原則、研修医の希望内容に即することとするが、診療科や施設との調整段階で対応等が困難である場合などは、臨床研修委員長と研修医が十分に協議した上で、研修医の希望に近い内容で、他の診療科や施設に変更等をお願いする場合があります。

なお、選択科の選択期間単位は、最低ラインを4週とする。

対応可能な診療科については、次ページに示す表のとおりである。

【対応できる選択科について】

▶対応できる診療科と臨床研修協力施設は、以下の通りとする。

	国際医療福祉 大学三田病院	国際医療福祉 大学病院	国際医療福祉 大学熱海病院	国際医療福祉 大学塩谷病院	国際医療福祉 大学市川病院	国際医療福祉 大学成田病院	医療法人財団順 和金山王病院	高木病院	福岡山王病院	柳川リハビリテー ション病院	豊島病院	国際医療福祉 大学クリニック	マロニエ苑	みなと 保健所
必修診療科	内科	○	○	○	○	○		○	○	選択科のみ				
	救急部門	○	○	○		○		選択科のみ				○		
	地域医療											○		
	外科	○	○	○	○	○	○	○	○					
	小児科		○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	産婦人科	○ (婦人科のみ)	○	○			○	○ (産科のみ)	○	○				
	精神科 (麻酔科)	○					○				○			
選択診療科	整形外科	○		○		○		○						
	皮膚科	○		○		○								
	泌尿器科	○	○			○								
	眼科	○		○		○								
	耳鼻咽喉科	○	○			○								
	リハビリテーション科	○				○				○				
	放射線科	○				○		○						
	脳神経外科	○	○	○		○								
	乳腺外科	○												
	形成外科	○				○								
	病理診断科	○												
	麻酔科	○	選択科のみ	選択科のみ	選択科のみ	選択科のみ	○		選択科のみ					
	保健・医療行政												○	○

(注記)

※内科は「呼吸器内科、腎臓・高血圧内科(透析も含む)、糖尿病・内分泌代謝内科、神経内科、循環器内科、消化器内科」の中から臓器別に選択しても可。

※外科は「消化器外科、呼吸器外科、心臓外科、移植外科」の中から臓器別に選択しても可。

※基本診療科と選択必修科に属する診療科については、各分類で作成している、プログラム内容をベースとして研修を行い、研修医の習熟度に応じて、研修実施責任者の判断で、更に専門的な研修もできるものとする。

※「○」と記載している部分が該当。また「選択科のみ」と記載している部分は選択科のみの研修対応となる。

3-1 整形外科臨床研修プログラム

(1) プログラムの概要と特徴

超高齢社会を迎え、運動器疾患が急増し、特に、腰痛、肩こり、手足など四肢関節の愁訴は常に上位にランクされている。整形外科では、スポーツ障害や労働災害、交通外傷などによる外傷性疾患から、加齢に伴う変形性脊椎症や関節症など、多くの疾患を対象にしている。将来の専門科として整形外科を希望する場合はもちろん、他科を希望する場合にも、臨床研修期間中に整形外科を経験することは、今後の臨床活動に大いに役立つ。

当整形外科では、運動器疾患や外傷に対するプライマリ・ケアの知識と技能を習得することを目的に、基本手技の指導を行うほか、各脊椎・上肢・下肢それぞれの専門班の指導医がさまざまな疾患の診療や治療計画について総括的教育を行う。研修では、外来（整形外科・脊椎脊髄センター）および入院患者の診療を通じ、整形外科診療の基本手技や診断に至る考え方を習得できる。

(2) 研修期間

本プログラムは選択 4 週から最長 24 週とする。

(3) 研修目標

① 病棟

指導医の指導のもとで入院患者を担当し、診察、処置、周術期管理、患者・家族へのインフォームド・コンセント等を研修する。

② 外来

指導医の外来を見学し、診察、処置、患者への対応方法等を研修する。また外来でギプス・シーネ固定、関節穿刺、注射等の処置を指導医の監督下で自ら実践する。

③ 検査

単純 X 線、CT、MRI などの読影を行い、指導医とディスカッションを行う。また、指導医の監督下で脊椎造影、神経根ブロック、関節造影等の検査を自ら施行し、検査結果の解釈を指導医とのディスカッションを行う。

④ 手術

指導医の手術に助手として参加し、清潔操作、手術器具の使用法の実際について研修する。また、指導医の監督下で小手術、骨折手術（大腿骨頸部骨折等）の術者となり、手術手技の習得を行う。

⑤ 救急処置

指導医の監督下で整形外科救急患者（救急外傷）の初療を研修する。

(4) 研修方法

週間予定

	月	火	水	木	金	土
早朝	脊椎カフア	病棟	整形外科カフア	病棟	研究カフア	病棟
午前	手術・外来	病棟・外来	手術・外来	病棟・外来	手術・外来	病棟・外来
午後	手術・外来	ギプス・装具 外来 検査（脊椎造影）	手術・外来	ギプス・装具 外来 検査（脊椎造影）	手術	病棟
夕方	ミエロカンフ ア					

※教育に関する行事

脊椎カンファレンス： 脊椎センター入院全症例の検討
整形外科カンファレンス： 整形外科入院全症例の検討
ミエロカンファレンス： 脊髄造影検査結果、手術計画の検討
病棟回診： 入院全患者の回診
研究カンファレンス： 当科で進行中の臨床・基礎研究の検討（隔週）
その他、不定期で学会発表予演会を行う。

(5) 研修施設・指導スタッフ

研修施設：国際医療福祉大学三田病院

研修実施責任者：長島 正樹

指導スタッフ：(臨床研修指導医は○)

○長島 正樹	副院長、整形外科部長、日本専門医機構整形外科専門医
笹生 豊	脊椎脊髄センター部長、日本専門医機構整形外科専門医

(6) 評価方法

EPOC（オンライン卒後研修評価システム）を用いて評価する。

3-2 皮膚科臨床研修プログラム

(1) プログラムの概要と特徴

皮膚の所見は肉眼で見えるものであり、その的確な診断・治療が患者にとって有益であることは言を待たない。しかしながら、単に見えていても診断は難しいことも多く、皮膚科専門医に併診する必要がある場合も少なくない。その見極めの体得が研修の主目的である。さらに、内科的全身性疾患の皮膚表現、皮膚外科の基本、皮膚病理入門的事項、皮膚生理の理解に基づいたスキンケアなど、皮膚科のカバーする広範な領域に触れ、皮膚科学の多彩さ、皮膚科臨床医の役割を習得する。

(2) 研修期間

本プログラムは選択 4 週 から最長 24 週 とする。

(3) 研修目標

皮膚科は頭皮毛髪から足爪までの皮膚および口腔粘膜を扱います。当科では短期間の研修で、皮膚における種々の疾患の診断を進め、的確な診断を得て適切な治療を行うためのストラテジーを習得すべく、皮膚科における一般診療の知識と診断技術を習得するように指導します。

(4) 研修方法

週間予定

	月	火	水	木	金	土
午前	外来					
午後	手術・病棟 症例検討会・病理 組織検討会	外来・病棟	外来・病棟	手術・病棟 症例検討会・病 理組織検討会	外来・病棟	外来・病棟

教育に関する行事

- 1 カンファレンス 全員参加
- 2 院内症例検討会 2ヶ月に1回程度開催
- 3 学会発表予定会 指導医のもとで準備、報告を行う
- 4 抄読会 月1回程度実施

研修内容

- 1) 皮膚科診断：
 - 病歴聴取、皮膚臨床所見の取り方、検査の進め方、検査手技（真菌顕微鏡検査、技術の基本、培養、貼付試験、皮内反応など）、皮膚病理組織学
- 2) 診療技術：
 - 外用療法（軟膏処置）、内服治療薬の選択、皮膚科的処置（軟属腫、鶏眼、面疱、陥入爪などの処置）、外傷、創傷、皮膚潰瘍、熱傷などの処置、ガングリオン、せつ、ようなどに対する切開、穿刺などの処置、冷凍療法、光線（紫外線）療法、スキンケア、レーザー療法
- 3) 小手術：
 - 皮膚生検、皮膚腫瘍の切除、皮膚（真皮）縫合、抜糸、テープ固定、糸による結紮、止血

(5) 研修施設・研修実施責任者

国際医療福祉大学三田病院 竹腰 知紀（准教授）

(6) 評価方法

EPOC（オンライン卒後研修評価システム）を用いて評価する。

3-3 泌尿器科臨床研修プログラム

(1) プログラムの概要と特徴

高齢化社会の進行、食生活の欧米化に伴い、前立腺疾患や尿路結石など泌尿器科疾患に罹患する患者が増加している。当プログラムでは、泌尿器科疾患全般についてのプライマリ・ケアや診断・治療の進め方を研修する。また、内視鏡手技や検査・手術手技の基礎的な研修を行うものである。同時に全人的な医師・患者関係の構築やインフォームド・コンセント、およびEBMに基づいた診療計画の立て方なども身につける研修の場としたい。

(2) 研修期間

このプログラムは 4 週以上、24 週以下 の選択とする。

(3) 研修目標

泌尿器科の基本的知識と手技を習得するとともに、泌尿器科的症状を有する患者に対する検査、診断、初期治療ができることを目標にする。

(4) 研修方法

(週間予定)

	月	火	水	木	金	土
AM	検査	病棟	手術	手術	外来	病棟
PM	病棟・検査	病棟・検査	手術 カンファレンス	手術	手術	

(教育に関する行事)

- ・カンファレンス 全員参加
- ・学会発表 指導医のもとで準備、報告を行う
- ・抄読会 月1回実施

(研修内容)

- 1) 診断技術の基本：
 - 病歴聴取、理学的所見のとり方（直腸診を含む）、検査の進め方（必要な検査項目と異常値の解釈）、画像検査の読影（X線検査、CT・MRI）
- 2) 診療技術：
 - 末梢及び中心静脈ルート確保、各種注射（皮内、皮下、筋肉、静脈、点滴）、モニター操作、導尿、尿道カテーテル・尿路変向の管理、疼痛の管理
- 3) 病棟：
 - 検査、術前・術後管理、栄養管理、重症管理、緩和ケア
- 4) 検査：
 - 内視鏡、X線検査、超音波検査（経腹的、経直腸的）、ウロダイナミクス検査、前立腺生検などについて指導医の下で施行する
- 5) 手術：
 - 開放手術、内視鏡的手術、腹腔鏡下手術などに助手として参加し汎用器具（メス、剪刀、鉗子、縫合糸、針）の操作を学ぶ
 - 研修後期には指導医のもとで術者を経験する。
- 6) 救急処置：
 - 指導医の下で止血、縫合、救急患者の気管内挿管、人工呼吸器や除細動器の操作・管理、蘇生処置など

(5) 研修施設・指導スタッフ

研修施設：国際医療福祉大学三田病院

研修実施責任者：大東 貴志

指導スタッフ：(臨床研修指導医は○)

○大東 貴志	泌尿器科部長	日本泌尿器科学会指導医
松井 善一	泌尿器科副部長	日本泌尿器科学会指導医

(6) 評価方法

EPOC（オンライン卒後研修評価システム）を用いて評価する。

3-4 眼科初期研修プログラム

(1) プログラムの概要と特徴

外界情報の7～8割は視覚を通して獲得されると言われている。眼科は正に患者のQuality of Lifeが求められる科である。当プログラムでは、眼科疾患全般についてのプライマリ・ケアや診断・治療の進め方を研修する。また、眼科は独自の検査機器が多く、眼球自体も特殊な物理特性を有するため、検査および治療に関してはその理論のみならず、機器の操作能力の獲得も目指す。患者と医師との信頼関係を大切にしながら、外来診療から手術まで研修してもらいたい。

(2) 研修期間

4週-24週

(3) 研修目標

眼科診療の基本的知識と診断技術を習得し、眼科的症状を有する患者に対して適切な検査、診断、初期治療ができることを目標にする。

ただし個々人の習熟度によって研修内容の進捗は差があり、特に侵襲的な手技についてはある程度の長期の研修期間を必要とする。研修期間、習得速度によっては機器を用いた患者の眼科診察まで到達できない可能性がある。

(4) 研修内容

(診療体制)

研修医1名に対しスタッフが交代で完全指導を行う。外来においては毎日当番指導医が症例の相談を受ける体制になっており、初期研修医は全症例について指導医の指示を受けることが義務付けられている。

(週間予定)

	月	火	水	木	金
午前	外来 術前診察	外来 術後診察	外来 術前診察	外来 術後診察	外来 術前診察
午後	手術	検査・処置 術前カンファ レンス	手術	検査・処置 術前カンファ レンス	手術

(研修内容)

オリエンテーション：研修開始にあたり、眼科診療の基本、眼科で使用する薬剤、眼科特有の略語などにつき概説する。

手術：清潔・不潔概念、術野消毒、麻酔方法を教育後、簡単な外眼部手術をスタッフの指導の下で行う。

1) 基本的診断技術：

病歴聴取、肉眼的所見の取り方

検査の進め方：必要な検査項目と異常の解釈

検査法の理解と手技：視力測定→細隙灯顕微鏡検査→眼底検査→眼圧測定

2) 主要疾患の理解：

診断、治療、鑑別診断、専門医へ送る基準、特に重症度と緊急性の判断

3) 治療技術：

点眼薬～内服薬の選択、軟膏処置、睫毛拔去、結膜～角膜異物除去、鼻涙管洗浄、レーザー治療

4) 小手術： 抜糸、霰粒腫切開、皮膚縫合など

5) 手術助手： 指導医監督のもと眼科マイクロサージャリーの助手を務める

(教育に関する行事)

オリエンテーション:

研修開始にあたり最初の1週間に、院内規定、施設設備の概要と利用方法、健康保険による診療制度と保険請求、医事法規などにつき指導を行う。

症例検討会など、大学主催の症例検討会、CPCにも必ず出席する。学会、懇話会、研究会、講演会:積極的に参加し、幅広く視野を広げ交流し、日々の診療に役立てるとともに、将来の発展の基礎づくりに励む。

(5) 研修施設・研修実施責任者 (臨床研修指導医は○)
国際医療福祉大学三田病院/杉崎 顕史(講師)

(6) 研修評価
EPOC(オンライン卒後研修評価システム)を用いて評価する。

3-5 頭頸部外科初期研修プログラム

(1) プログラムの概要と特徴

2年次に選択科目として希望者のみローテーションが可能である。頭頸部腫瘍に対する専門的診断・治療について知識を得、基本的な外科的手技、周術期及び化学療法中の補液等について、頭頸部外科医を目指す研修医にとって必要最低限の臨床能力を習得するためのプログラムであり、耳鼻咽喉科との共通プログラムではない。当センターで研修する場合下記週間予定を基本とし、積極的に地方部会等の学会発表、院外での勉強会、他施設との合同カンファレンスにも参加を求める。

(2) 研修期間

選択プログラムで4週以上、24週以下とする。

(3) 研修目標

以下のような項目を習得することを目標とする。

- 1) 診療技術の基本: 他業種の仕事を理解、連携の取り方 頭頸部腫瘍症例の理学的所見の取り方、画像読影につき経験し学ぶ。
- 2) 検査: 鼻咽喉・咽頭ファイバー、超音波エコーなどの基本手技の習得を目指す。
- 3) 口腔ケアおよび嚥下機能評価やリハビリ指導の経験をする。
- 4) 処置・小手術: 中心静脈静脈路確保、気管切開術を指導医の下で経験する。

※研修態度・実績によって頸部良性腫瘍摘出、自家遊里複合皮弁採取なども経験させる。

(4) 研修方法

(診療体制)

外来診療の実際を指導医とともに経験する。入院患者の診察、手術への参加。

(週間予定)

	月	火	水	木	金
午前	画像検査、 外来、病棟	術前・放射線合同 カンファレンス、 手術	画像検査、 外来、病棟	手術	病棟・術前カン ファレンス、 手術
午後	画像検査、 外来、病棟	手術	画像検査、 外来、病棟	手術	手術

- 回診は平日業務開始前に毎日行う。自発的な病棟回診は自由。
- * 土曜及び休日の病棟業務への参加は自由。
- * 夜間緊急手術も希望者へは連絡をするが、参加は自由。

(5) 研修施設・指導スタッフ

研修施設：国際医療福祉大学三田病院

研修実施責任者：多田 雄一郎（頭頸部腫瘍センター部長）

指導スタッフ：（臨床研修指導医は○）

多田雄一郎	頭頸部腫瘍センター部長
増淵達夫	頭頸部腫瘍センター副部長

(6) 研修評価

EPOC（オンライン卒後研修評価システム）を用いて評価する。

3-6 耳鼻咽喉科臨床プログラム

(1) プログラムの概要と特徴

2年次に選択科目としてローテーションする。耳鼻咽喉科疾患のプライマリケアの診断と治療を的確に処理する能力を習得するためのプログラムである。そして人工内耳・人工中耳手術のような最先端治療に早くから触れてもらい、専門的医療の技術を理解してもらう。また、遺伝外来を見学し遺伝学的知識の取得を目指す。以下のような行事に参加する。

- 1) カンファレンス 全員参加
- 2) 病棟回診
- 3) 学会発表予定会 指導医のもとで準備、報告を行う

(2) 研修期間

選択プログラムで 24 週以内

(3) 研修目標

以下のような項目を習得することを目標とする。

- 1) 診療技術の基本:
病歴聴取し診療録に記載できる・理学的所見を取り、必須の検査を行う・側頭骨や副鼻腔の画像が読影できる。
- 2) 検査:
聴覚検査、平衡機能検査、顔面神経検査、嗅覚検査、味覚検査、拡大耳鏡検査、顕微鏡下検査、鼻咽喉・咽頭ファイバ-などの検査結果を解釈し、実施方法を述べる
ことができる。
- 3) 処置・小手術:
鼻出血止血術、鼓膜切開術、扁桃周囲膿瘍切開術、鼻骨骨折整復術、気管切開術、咽頭異物除去術などを指導医の下で経験する。

(4) 研修方法

診療体制

外来診療の実際を指導医のもとでおこなう。入院患者の診察、手術への参加。

週間予定

	月	火	水	木	金	土
午前	外来	手術	外来	外来 手術	外来	外来
午後	手術 抄読会	手術 アレルギー外 来 術前カンファ	外来 難聴外来 補聴器外来	外来 手術	外来 難聴外来 補聴器外来 STカンフ ア	遺伝外来 (隔週) スタッフカン ファ

(5) 指導スタッフ:

- 岩崎 聡 (教授:耳鼻咽喉科 耳科学、耳科手術、聴覚医学、人工聴覚、遺伝性難聴)
- 高橋 優宏 (准教授:耳鼻咽喉科 耳科学 人工内耳手術、小児難聴、難聴遺伝子)
- 古館 佐起子 (講師:耳鼻咽喉科 耳科学、聴覚医学、咽頭手術、小児難聴)
- 岡晋一郎 (医師:鼻アレルギー、鼻副鼻腔内視鏡手術、免疫療法、嗅覚・味覚障害)

(6) 研修評価

当院の臨床研修は厚生労働省の新臨床研修医制度における指導ガイドラインに基づき、EPOC (オンライン卒後研修評価システム) を用いて評価を行う。

3-7 リハビリテーション科臨床研修プログラム

(1) プログラムの概要と特徴

2年次に選択科目としてローテーションする。リハビリテーション科を志す医師に対して、その基礎となる各種疾患の知識・検査手技・リハビリテーション技術を習得するためのプログラムである。当院の特徴として、各種高次脳機能障害のリハビリテーション、整形外科・脊椎脊髄センター入院患者における運動器リハビリテーション、胸部・腹部疾患の術前・術後の呼吸器リハビリテーション、がんのリハビリテーションに力を入れている。

以下のような行事に参加する。

- 1) ミニカンファレンス : 全員参加
- 2) 神経内科・リハビリテーション部合同カンファレンス : 全員参加
- 3) 学会発表予定会 : 指導医のもとで準備、報告を行う

(2) 研修期間

選択プログラムで、12週以内の短期研修プログラムと24週以内の長期研修プログラム

(3) 研修目標

以下のような項目を習得することを目標とする。

1 医師としての基本的能力

- 1) 病歴聴取、理学的所見の取り方、検査の進め方、読影
- 2) リハビリテーション領域における各種診断書（身体障害者診断書、年金診断書、後遺障害診断書など）の意義、法的重要性、作成ポイントなどの理解
- 3) リハビリテーションに関連する医療保険、介護保険制度の理解

2 リハビリテーション医としての専門的な能力

- 1) リハビリテーションの理念、障害概念、国際生活機能分類の理解
- 2) リハビリテーション領域における診断・評価学
- 3) リハビリテーションにおけるリスク管理
- 4) リハビリテーション領域における治療手技
- 5) リハビリテーションの対象となる主要疾患の理解と、適切な診断・治療技術

(4) 研修方法

外来診療の実際を指導医のもとでおこなう。入院・外来患者の診察、PT, OT, ST 訓練実習への参加。

(週間予定)

	月	火	水	木	金
午前	外来	外来	外来 装具診	病棟	脊髄脊椎センター 整形外科回診 外来
午後	ミニカンファレンス 病棟 ST実習	ミニカンファレンス 病棟 PT実習	ミニカンファレンス 病棟 施設見学	病棟 OT実習	ミニカンファレンス 病棟 神経内科カンファレンス 及び回診

(5) 研修施設・指導スタッフ

研修施設：国際医療福祉大学三田病院

研修実施責任者：橋本 弦太郎（リハビリテーション科医長）

(6) 研修評価

EPOC（オンライン卒業後研修評価システム）を用いて評価する。

3-8 放射線科臨床研修プログラム

(1) プログラムの概要と特徴

2年次に選択科目としてローテーションする。画像診断学、放射線治療・核医学につき理解を深め、実務能力を獲得することを目的とする。

(2) 研修期間

選択科目において4週以上ローテーション可能。

(3) 研修目標

以下のような項目を習得することを目標とする。

<画像診断部門>

・単純X線、消化管造影検査、マンモグラフィー、CT、MRIなどの各種画像診断モダリティを経験・理解し、画像診断レポート作成を目指す。

<放射線治療部門>

・癌診療における放射線治療の臨床的な位置づけ・適応を理解する。

・放射線治療のワークフローを理解する。

・放射線治療技術につき理解を深める。

<核医学部門>

・単光子放出核種プランナー・断層画像、FDG-PETによる核医学診断を経験し、核医学診断レポート作成を目指す。

(4) 研修方法

(診療体制)

放射線診療・画像診断の実際を指導医のもとでおこなう。外来患者の診察、放射線治療計画の立案、画像診断レポートの作成。核医学診断レポートの撮影。これらに伴う業務の実施。

(週間予定)

	月	火	水	木	金
午前	外来、画像診断	外来、画像診断	外来、画像診断	外来、画像診断	外来、画像診断
午後	画像診断、 放射線治療計画	画像診断	画像診断、 放射線治療計画	画像診断	画像診断、 放射線治療計画

(画像診断に核医学を含む)

(5) 研修施設・指導スタッフ

研修施設：国際医療福祉大学三田病院

研修実施責任者：國松 聡

指導スタッフ：(臨床研修指導医は○)

○國松 聡	教授 放射線診断 画像診断部長	画像診断
奥田 逸子	准教授 放射線診断センター	画像診断

(6) 研修評価

当院の臨床研修は厚生労働省の新臨床研修医制度における指導ガイドラインに基づき、EPOC（オンライン卒後研修評価システム）を用いて評価を行う。

3-9 婦人科臨床研修プログラム

(1) プログラムの概要と特徴

産婦人科診療は内科的アプローチ、外科的アプローチ、救急医療、社会医学など数多くの側面を持つ。さらに、他診療科とは異なる特有の診察スキルや、産婦人科でしか経験できない症例について学ぶことが可能である。産婦人科の特性上、学生実習では診療に参加する機会が少なく、十分に経験することができず理解が進まなかったという印象が強いと思われるが、当プログラムではそれらを補うべく、女性のライフステージにより沿った医療を学習することが可能である。また、産婦人科を志望する研修医には、外来での問診や診察、手術参加を通して、産婦人科医としての働き方をイメージするために全面的にサポートしたいと考える。

産婦人科学は大きく婦人科腫瘍学、周産期学、生殖内分泌学、女性医学の4領域で構成されており、当院では婦人科腫瘍学と女性医学の診療に重点を置いている。

婦人科腫瘍学：良性疾患では腹腔鏡手術を中心にを行い、早期社会復帰を実現する手助けをしている。また、子宮鏡手術や円錐切除術等の経腔手術は診断に必須の手技であり、婦人科手術の基礎を学ぶことができる。子宮体がん、子宮頸がん、卵巣がんに代表される悪性疾患に関しては、個別に症例検討を行い、開腹手術、放射線療法、薬物療法（化学療法、分子標的薬）、緩和療法による集学的治療を実施している。最近では、遺伝診療やがんゲノム医療も導入しており、先進的な医療を学習できる環境が整っている。

女性医学：女性医学の扱う分野は広く、月経不順や更年期障害、ウロギネコロジーなど、あらゆる世代の女性が対象となる重要な分野である。丁寧な問診や患者とのコミュニケーションにより、適切な治療計画を作成し、QOLの維持や改善を目指すのが醍醐味である。

以上のように、産婦人科プログラムでの研修では女性腫瘍センター・婦人科の担う幅広い領域を見学・習得し、今後の診療に生かすことを目標とする。

(2) 研修期間

本プログラムは選択 4週とする。

(3) 研修目標

- ① 女性特有の疾患およびプライマリーケアに関する知識・技術を習得する。Common disease に対し適切な対応ができるようになる。
 - ② 救急医療における女性特有の疾患について理解する。
 - ③ 婦人科腫瘍（良性疾患、悪性疾患）についての基本的知識を習得する。婦人科手術に参加し、基礎的な手術手技を習得する。また周術期管理について理解する。
- 上記を中心に、外来、病棟、手術室においてバランスのとれた医療者として対応ができるよう努める。

(4) 研修方法

(週間予定)

	月	火	水	木	金	土
午前	手術	手術	手術	病棟	病棟	病棟
午後	病棟	手術	手術	外来 腹腔鏡練習	外来 腹腔鏡練習	病棟

(教育に関する行事)

- 1) カンファレンス 全員参加
- 2) 院内症例検討会 月に1回開催
- 3) 学会発表 指導医のもとで準備、報告を行う
- 4) 抄読会 月1回実施

(研修内容、到達目標)

選択科であるため、研修内容は研修医の学びたい内容に沿った形で柔軟に対応する。

1) 手術：

一般的な糸結びができる
開腹と閉腹の助手ができる
腹腔鏡手術でマニピュレーター操作ができる

2) 病棟：

婦人科の入院を要する疾患を知る
手術を要する婦人科疾患を知る
婦人科がんの種類とステージを知る
術前の処置を理解する
術後の管理（採血、輸液、抗菌薬、ドレーン、in/out balance）ができる
創部の管理ができる
抗がん剤の種類と適応を知る
鎮痛剤の選択ができる（術後、がん患者の麻薬など）
抗菌薬の必要性を判断できる
点滴の管理と必要性が判断できる
便秘薬、睡眠薬、鎮痛剤などの一般的な薬を処方できる
先進的な医療に触れる（検査、治療法選択など）

3) 外来：

初診時に問診が必要な項目を理解する
救急医療で婦人科疾患を鑑別するために必要な確認項目、検査を理解する
婦人科的問診ができる
婦人科診察に立ち会う

(5) 研修施設・指導スタッフ

研修施設：国際医療福祉大学三田病院

研修実施責任者：上田 和

指導スタッフ：(臨床研修指導医は○)

○上田 和	副院長、教授、婦人科部長、日本産科婦人科学会認定指導医・産婦人科専門医
永吉 陽子	講師、婦人科医員、日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医

(6) 評価方法

到達目標に従って自己評価および指導医評価が行われる。

(7) 研修評価

当院の臨床研修は厚生労働省の新臨床研修医制度における指導ガイドラインに基づき、EPOC（オンライン卒後研修評価システム）を用いて評価を行う。

3-10 形成外科臨床プログラム

(1) プログラムの概要と特徴

形成外科では、顔面外傷、熱傷、瘢痕、皮膚良性腫瘍（母斑、粉瘤、脂肪腫等）、皮膚悪性腫瘍、再建（外傷や腫瘍切除後の変形）、リンパ浮腫、眼瞼下垂等の加齢に伴う症状など、体表の様々な疾患を治療する。“美しいものは機能的であり、機能的なものは美しい”を治療の真髄とする。形態を治療することによって精神的改善が得られるため、精神外科とも呼ばれる。このような特色ある形成外科を、実臨床を通じて理解することに主眼をおく。

(2) 研修期間

選択プログラムで 24 週以内

(3) 研修目標

以下のような項目を習得することを目標とする。

1) 病棟：

指導医の指導のもとで入院患者を担当し、診察、処置、周術期管理、患者・家族へのインフォームド・コンセント等を研修する。

2) 外来：

指導医の外来を見学し、診察、処置、患者への対応方法等を研修する。また外来で創傷治療処置を指導医の監督下で自ら実践する。

3) 手術：

指導医の手術に助手として参加し、清潔操作、手術器械の使用法の実際について研修する。また、指導医の監督下で切開、縫合などの基本手術手技の習得を行う。

4) 救急処置： 指導医の監督下で顔面外傷や熱傷の初療を研修する。

(4) 研修方法

(診療体制)

外来診療の実際を指導医のもとでおこなう。入院患者の診察、手術への参加。

(週間予定)

	月	火	水	木	金	土
午前	病棟回診 外来	病棟回診 外来	病棟回診 手術	病棟回診 外来	病棟回診 外来	病棟回診 外来
午後	病棟	手術	手術 術前カンファ レンス	病棟	手術	病棟

(5) 研修施設・研修実施責任者

国際医療福祉大学三田病院/大原 博敏 (形成外科部長・教授)

(6) 研修評価

当院の臨床研修は厚生労働省の新臨床研修医制度における指導ガイドラインに基づき、EPOC（オンライン卒後研修評価システム）を用いて評価を行う。

3-1 1 脳神経外科臨床研修プログラム

(1) プログラムの概要と特徴

将来の専門性にかかわらず、日常診療で頻繁に遭遇する疾患や病態に適切な対応ができるように、脳神経外科医療チームの一員として診療に携わりながら、脳神経外科的疾患への対応、周術期管理、脳卒中救急医療を研修する。脳神経外科的治療の適応、有効性と限界、その手術術式を理解しながら、プライマリ・ケアの実践に必要な外科的基本手技を身につける。将来、脳神経外科専門医を志望する医師に対してはこれら導入的な基礎知識や基本手技の他、さらに簡単な手術（慢性硬膜下血腫など）を術者として研修する。

(2) 研修期間

選択プログラムで4週間以上

(3) 研修目標

脳神経外科的疾患の手術適応、術前検査、周術期管理などの基礎的知識やプライマリ・ケアの実践に求められる切開・縫合などの基本的手技を習得する。

(4) 行動目標

- ① 患者・家族や医療スタッフとの信頼関係を築きチーム医療を実践出来る。
- ② 術前検査の計画（種類、進め方、結果の評価）を実施出来る。
- ③ 手術患者の危険因子 risk factor をまとめたプレゼンテーションができる。
- ④ インフォームド・コンセントの基本を説明出来る。
- ⑤ 周術期における輸液・輸血の管理が出来る。
- ⑥ 周術期管理に使用される生体監視装置（モニター）の評価ができる。
- ⑦ 主要な術後合併症を列挙し、その予防方法と対応を説明出来る。
- ⑧ 周術期における医療事故、院内感染などの防止および発生後の対処法を理解し、マニュアルなどに沿って行動出来る。

(5) 経験目標

- ① 清潔／不潔の区別を説明し、正しく実施（手洗い・ガウンテクニック・器具の操作）ができる。
- ② 術野と創の消毒方法を説明し、正しく実施できる。
- ③ 創のデブリードマン、止血方法、基本的な縫合（局所麻酔法を含む）を説明し、正しく実施できる。
- ④ 包帯法とドレッシングの基本を説明し、正しく実施できる。
- ⑤ ドレーン挿入の適応や方法、手技に伴う合併症などを説明し、正しく実施出来る。

(6) 研修方法

（診療体制・週間予定）

月	術前カンファレンス、手術（頭蓋内疾患）、回診
火	回診、外来、病棟業務
水	回診、外来、病棟業務
木	総合カンファレンス、回診、外来、血管撮影などの検査、病棟業務
金	回診、外来、病棟業務
土	外来、ほか

(7) 研修施設・指導スタッフ

研修施設：国際医療福祉大学三田病院

研修実施責任者：大山健一

指導スタッフ：(臨床研修指導医は○)

○大山 健一	教授、日本脳神経外科学会認定指導医・脳神経外科専門医
須磨 健	教授、日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医
田部井 勇助	講師、日本脳神経外科学会認定指導医・脳神経外科専門医
石川 久	講師、救急医学会救急科専門医

※その他、研修施設は「国際医療福祉大学病院、国際医療福祉大学熱海病院」も選択可能。

(8) 研修評価

当院の臨床研修は厚生労働省の新臨床研修医制度における指導ガイドラインに基づき、EPOC（オンライン卒後研修評価システム）を用いて評価を行う。

3-1 2 病理診断科臨床研修プログラム

(1) プログラムの概要と特徴

病理学とは、その名の通り「病気の理論・機序を学び、研究する学問」である。従って、その間口は広く、奥深い。病理の初期研修では、その体験を通し、病理学の基礎知識・基礎的技術を学び、問題解決の方針・方法を自ら考え、実行する力を培う事に主点が置かれる。同時に、病理解剖などを通し、人の命の尊さ、人間の尊厳、はかなさを身をもって感じとり、自己の人間形成に還元することが重要である。1人1人の患者さんにとって、病理診断の重要性、治療方針決定への影響、疾病機序の解明が如何に大切かを体得し、日常の臨床と病理の絆を強固にする姿勢を養う。プログラムの特徴としては、自らが、考え、体験して修得する「体験・修得型」方式を基礎としている。もちろん、指導医はそれを全力で support する。また、人体病理、外科病理を主体とし、臨床との結びつきの強い病理研修プログラムとなっている。

(2) 研修期間

選択プログラムで 4 週以上 24 週以内

(3) 研修目標

- ① 病理医としてのみならず、将来、臨床医になっても必要な基礎知識・技術を習得する。
- ② 生命現象の規則性、合理性あるいは複雑性を病理学的検索を通して体感する。
- ③ 病理学的あるいは臨床上の問題解決のための方法論とその限界を学習する。
- ④ 具体的には：
 - * 日常遭遇する疾患の病理学的知識と病理診断能力を身につける。
 - * 細胞診、組織診、病理解剖の全過程を体験し、検索方法と問題解決能力を身につける。
 - * 各科との conference、CPC、院外の研究会、学会発表を担当し、発表能力と討論能力を身につける。

(4) 研修方法

- 病理の基本的業務 ①組織診断、②細胞診診断、③病理解剖を指導医の監督・指導のもと、自ら実施する。特に肉眼所見の把握と診断、標本作製過程の知識と実践、病理組織学的基本知識と疾病の知識、病理診断報告書の書き方と臨床へのコメントの重要性を学ぶ。
- 各種 conference、症例検討会等で、病理 presentation を担当し、指導医・臨床医との討論を通じて疾病自体の知識、病理学的思考方法、presentation の仕方を学ぶ。
- 自ら各種疾病の問題点、研究課題を設定し、その解決方法を模索し、指導医との討論を通じて解決を図る。

(週間予定)

	月	火	水	木	金	土
AM	手術標本の肉眼観察と切り出し、迅速標本の診断、細胞診、組織診の鏡検と報告書作成					解剖症例の標本検討・指導医との討論、報告書作成
PM	Conference・症例検討会等の発表の勉強と準備、解剖症例の勉強と標本の検討					

- 各種 conference 等 (参加すべきもの)
 - 毎月第 1 木曜日 : Cancer Board (病院全体)
 - 毎月 1~2 回 16:30~17:00 呼吸器 conference
 - CPC (年 数回) : (病院全体)

(5) 研修施設・指導スタッフ

研修施設：国際医療福祉大学三田病院

研修実施責任者：相田 真介

指導スタッフ：(臨床研修指導医は○)

○相田 真介	教授、病理専門医、病理研修指導医、細胞診専門医
大谷 方子	教授、病理専門医、病理研修指導医、細胞診専門医

(6) 到達目標

- ・手術標本・解剖標本の肉眼診断、切り出し方法、標本作成の知識と実践を修得する
- ・日常遭遇する疾患の組織診断、各種臓器癌の代表的組織型の診断の能力を修得する
- ・日常診療や症例検討会等での病理医と臨床医との communication 能力を修得する

(7) 研修評価

- ・到達目標に沿って、自己評価および指導医評価が行われる。
- ・EPOC 導入により、対外的にも出来るだけ客観性のある評価を心掛ける。

3-13 麻酔科臨床研修プログラム

(1) プログラムの概要と特徴

麻酔科研修を通じて、医師としての使命感、責任感、倫理感を養い、将来の専門性にかかわらず日常診療に必要な基本的手技を身につけることを目的とする。プログラム内容は、研修医の自主性と主体性を尊重しつつ、厚生労働省の定める研修必修項目を偏りなく実習することができるように配慮されている。

(2) 研修期間

選択診療科 4 週以上

(3) 研修目標

周術期の麻酔管理を指導医とともに実践し、医師としての基本姿勢、態度および基本的手技を修得する。

(4) 研修方法

(診療体制)

研修医は、指導医とともにマンツーマンで周術期麻酔管理を行う。また、術前・術後回診を積極的に行い、患者および医療従事者間のコミュニケーション能力を高めるようにし、毎朝の症例カンファレンスに参加する。

(週間予定)

	午前	午後
月曜日	カンファレンス、手術室にて麻酔研修	麻酔研修、術前・術後回診
火曜日	〃	〃
水曜日	〃	〃
木曜日	〃	〃
金曜日	〃	〃
土曜日	〃	〃

(5) 研修施設・指導スタッフ

研修施設：国際医療福祉大学三田病院

研修実施責任者：宮下 徹也

指導スタッフ：(臨床研修指導医は○)

宮下 徹也	麻酔科部長・ICU 部長 教授
○馬場 靖子	麻酔科部長・手術部部長 教授

(6) 研修評価

当院の臨床研修は厚生労働省の新臨床研修医制度における指導ガイドラインに基づき、EPOC (Evaluation system of Postgraduate Clinical training: オンライン卒業研修評価システム) を用いて 評価を行う。

3-1 4 検査科臨床研修プログラム

(1) プログラムの概要と特徴

臨床医において検査は必要不可欠なものであり、検査との関わりが途切れることはない。検査部での研修を通じ、診療の基本となる臨床検査の幅広い知識と技術の習得を目指す。

(2) 研修期間

選択診療科 4 週以上

(3) 研修目標

- ① 臨床検査を効率的に行い、その結果を解釈できる。
- ② 基本的な検査を自ら実施できる。
- ③ Reversed Clinico-pathological Conference (RCPC)等を通じて、診療に必須な検体系検査データの見方を習得する
- ④ 多職種と協調してチーム医療を行う。

(4) 研修方法

研修場所：検体検査室、生理検査室

週間予定（例）：

月～土 <午前> 実習（超音波検査、検体検査）
 <午後> 実習（超音波検査、検体検査、RCPC）

(5) 研修施設・指導スタッフ

研修施設：国際医療福祉大学三田病院

研修実施責任者：○小島 智亜里（講師）

(6) 研修評価

厚生労働省の新臨床研修医制度における指導ガイドラインに基づき、EPOC（オンライン卒後研修評価システム）を用いて評価を行う。

3-15 保健・医療行政臨床研修プログラム(保健所)

○保健・医療行政(保健所研修)

(1) プログラムの概要

保健所研修では健康障害、疾病予防のための諸対策及び健康増進や健康づくりのための計画、制度やシステム、さらに健康危機管理体制の仕組みなどを理解し実践することにより、医師法第1条に定めるところの医師としての保健・医療行政・公衆衛生活動に対する基本的な考え方、技術、知識を身につけていく。

(2) 研修期間

選択プログラムで4週

(3) 研修目標

保健所の役割(保健・医療行政・健康増進への理解を含む)について理解し、実践する。

(4) 研修方法

(チーム医療)

- ・患者の転入・転出の情報交換の方法を学ぶ。
- ・関係機関や諸団体関係者とのコミュニケーション方法を学ぶ。

(安全管理)

- ・医療を行う際の安全確認の考え方を理解する。

(医療の社会性)

- ・保健医療法規・制度を理解する。
- ・医療保険、公費負担医療を理解する。

(5) 研修施設・研修実施責任者

みなと保健所/笠松 恒司 (所長)

(6) 研修評価

臨床研修は新臨床研修医制度における指導ガイドラインに基づき、評価を行う。指導医は自己評価結果を随時点検し、研修医の到達目標達成を援助する。

3-16 保健・医療行政臨床研修プログラム（介護老人保健施設）

○保健・医療行政（介護老人保健施設）

(1) プログラムの概要

介護老人保健施設をベースとした、各種の介護サービス、医療保健施設と連携しながら、QOLを重視した患者、家族のための医療を考え、生活環境の中で医療がどうあるべきかを学ぶ。

(2) 研修期間

選択プログラムで4週。

(3) 研修目標

介護老人保健施設の役割について理解し、実践する。

(4) 研修内容など

- ・高齢者とのコミュニケーション方法を学ぶ。
- ・日常生活自立度（傷害老人、認知症性老人）の判定方法を学習する。
- ・リハビリ目標の設定や今後の方向性・指導方法を学ぶ。
- ・誤嚥の対策と治療方法を学ぶ。
- ・経管栄養の実際とリスクを理解する。
- ・排尿、排便のコントロールを実践する。
- ・褥瘡の治療を学ぶ。
- ・認知症患者の対応方法を学ぶ。
- ・介護保険の主治医意見書の書き方を学ぶ。
- ・通所リハビリの実際を経験する。
- ・在宅改修の家屋調査に参加する。

(5) 研修施設・研修実施責任者

介護老人保健施設 マロニエ苑/浦野 友彦（施設長）

(6) 研修評価

臨床研修は新臨床研修医制度における指導ガイドラインに基づき、評価を行う。指導医は自己評価結果を随時点検し、研修医の到達目標達成を援助する。

4 一般外来研修について

(1) 概要

高頻度または慢性的な疾患について、臨床推論プロセスから診断、継続的な診療を一般外来研修にて学ぶ。

地域医療の外来診療時、小児科の必修診療科プログラムの研修内で一般外来研修を行い、common disease や慢性疾患に対し、あらゆる角度から診療ができる臨床研修医を養成する。

(2) 研修期間

研修期間は必修診療科として4週以上とする

※地域医療、小児科の外来診療と並行する。(地域医療 3週以上、小児科1週以上)

(3) 研修目標

- ① 初診患者の症候や病状を理解し、正しい処置、検査、処方を行う
- ② 慢性疾患患者の処方薬の効果や病状を把握し、必要な検査や処置、増薬・減薬を判断する。
- ③ 初診患者の間診において、病歴等をヒアリングする方法を学ぶ。
- ④ 重症の場合は、初期対応後に適確な診療科にトリアージを行う。
- ⑤ 患者に不快を与えない身なりで、自信のある診療態度が取れ、患者の信頼が得られるような臨床医になる。

(4) 研修方法

- ① 原則として、地域医療の外来診療と並行する。不足分については小児科のブロック研修時に、並行研修として一般外来研修を行うこととする。
- ② 初診患者については、指導医と共に診療を行い、その病状に対し、正しい処置、検査、処方を行う。診療後は、診療録へ診療内容を記載し、必ず指導医のカウンターサインをもらう。
- ③ 慢性疾患患者についても、指導医と共に診療を行い、以前の病状（カルテ）と現在の病状を比較し、正しい診療を行う。診療録についても、初診患者と同様である。
- ④ 慢性疾患患者については、処方薬の量を適宜調整し、残薬調整を行う。初診患者については、過剰な処方は行わず、必要な量を処方する。
- ⑤ 処置、注射の際は、指導医の指示を必ず聞いた後に対応を行う。
- ⑥ 最終的には、指導医帯同にて初診患者・慢性疾患患者の間診から処方まで、自身で判断し、診療の一連の流れを理解する。